

## 機能性薄膜を転写した室内環境向上ボカスギ内装材の開発

### 1 中核機関・研究総括者

富山県林業技術センター木材試験場 藤澤 泰士

### 2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

### 3 研究目的

富山県では、電柱材利用を目的として植林されたボカスギ材の需要を確保するため、付加価値を高めたボカスギ内装材の開発が地域林業の早急な課題となっている。

このため、山元地域で生産可能で、任意の色・艶調整や電磁波シールド機能を付与した水蒸気透過薄膜を木材表面に加熱転写する高機能ボカスギ内装材の実用化技術を確立する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 水蒸気透過薄膜の転写接着性向上技術の開発（東京農工大学、富山県林業技術センター木材試験場）

富山県林業技術センターが開発した水蒸気薄膜転写の基本技術を基に、一般の住宅用内装材に必要な接着性を有する転写薄膜を開発する。

#### ② 内装用ボカスギ材の調整および薄膜加熱転写によるボカスギ内装材の製造技術の確立（富山県森林組合連合会）

山元地域で安定した製造を行うため、加熱転写に適したボカスギ材の調整方法および品質管理を含む実用的生産技術を確立する。

#### ③ 電磁波シールド性を持つ水蒸気透過薄膜の製造技術の確立（富山県林業技術センター木材試験場）

薄膜中に水蒸気透過の微細な孔を設けた導電性皮膜を形成させた電磁波シールド薄膜を開発し、オフィス用電磁波シールド木質内装材を開発する。

### 5 目標とする成果

付加価値の高いボカスギ内装材の実用的製造技術が確立される。これにより、生産規模が小さく、高度な技術を有しない森林組合等でも対応可能な技術として、山元地域への技術導入と事業化が期待される。